

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2991700010	
法人名	有限会社 在宅介護サービス 応援隊	
事業所名	グループホーム 安堵園	
所在地	奈良県生駒郡安堵町西安堵570-1	
自己評価作成日	平成25年7月10日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア		
所在地	大阪府泉佐野市景ヶ丘四丁目4番33号		
訪問調査日	平成25年7月25日	評価結果決定日	平成25年8月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれの方の自由を尊重しつつ、仲間を大切にする為に毎日を全員で大切にするために住み慣れた家のように、快適にくつろげるグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的で、居心地の良い空間で過ごして頂きたいという思いがあり、それを実践されている様子が確認出来ました。スタッフは、入居者個々の生活スタイルや希望要望に出来る限り対応する様尽力されています。尊敬についての意識も高く、入居者を第1に考えて行動されています。また、より良いサービス、ケアについて常に考えておられ、現状に満足せず、取り組んでおられる姿勢が伺えます。開設して1年ではありますが、創意工夫により、今後の運営に期待が持てます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自由、自立、尊厳、繋がりを理念とし、それに基づいて職員一人一人が考えて行動しています。	職員の採用時に説明。また、日々の業務の中で、行動に迷った時、理念にもど話し合いが行われています。理念に基づき行動する様、周知されています。	入居者の生活への配慮を大切にし、生活空間に似つかわしくない掲示物は控えていると話されていました。また、掲示する事を提案させていただきます。理念はホーム運営の根本的な考えです。可視化する事で、家族や面会者など外部の方がホームの考えを知る事、また、職員が見て、確認し、理解し、実行する為に役立つと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	近隣の散歩や自治会の広報から催し物の参加やクリーンキャンペーン等に参加して地域との交流を図る努力をしています。	地域の夏祭りや、コミュニティーセンターのカラオケ大会などに参加されています。	開設して1年。今後、地域との関わりを深め、ホーム側からも企画して地域と関わって行きたいと話されました。今後の活動に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族様やお友達には理解を促していますが、それ以外は積極的には出来ていません		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催により、利用状況や行事等の報告をし、また意見交換によりサービス向上に向けて努力しています。	2か月に1回開催。民生委員、行政、家族、入居者などが参加。ホームの状況や近況を報告。また、認知症など、介護に関わる勉強会等を企画し、相互理解の場としても活用されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	目の前に、地域福祉課、地域包括、社協があり何かあった時にはすぐに報告、連絡し連携に努めています。	日頃から、相談や報告などを行い、行政との連携がなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していますが、職員には指導しています。	玄関は施錠されていますが、入居者の方が外出したい時は職員が付き添い対応されています。また、身体拘束や虐待のマニュアルを元に、日々の業務の中で啓発・指導を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等により、話し合いの場を持ち職員一人一人が抱え込まない様に、また個別に相談する機会を持ち話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、疑問点や不安な事を聞くように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等により意見、要望があれば、すぐに対応する様にしています。	日頃から、面会時や電話で近況報告をするなど、家族と関係を深め、意見を言い易い雰囲気になる様、意識されています。また、意見や要望があれば、出来る限り対応できる様、検討されています。	家族との関わりを大切にされていますが、家族としても、関係性を壊したくないの思いから、言えない事もあるかも知れません。意見箱を設置するなどし、幅広く意見を集め、運営に反映できる事に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや個別に話し合い、意見や提案があればその都度聞き対応するように努力しています。	個人面談はなかなか出来ない状況と話されていましたが、日々の業務の中で、職員個々と話し、意見を聞き取るなど尽力されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	上司との話し合いの場を持ち、その都度話し合って改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交流会への参加や研修のお知らせにより、参加の機会を設けています。またカンファレンス等により指導する場を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会への参加や研修のお知らせにより、参加の機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談等により話し合いの場を持ちコミュニケーションに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に話しを聞き、困っていることや不安を取り除く努力をし、要望に応じていく様に対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いながら、相談させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みの関係が築けるように努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人との関係を重要視しながら関わって行ける様になっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や手紙等、馴染みのあった人や場所との関係が途切れないようにしています。	友人が面会に来られたり、昔、活躍していた場所への訪問を企画されるなど、関係維持が出来るよう配慮されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努力していますが、充分ではありません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	そうしたいと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報やアセスメントにより、本人の望む生活の把握に努めていますが、充分ではありません。	入居後も、家族からの情報や、本人の意向を聞き取りながら、コミュニケーションをとり、意向把握に努めておられます。入居者の方がその人らしく生活を送れる様、きめ細やかに対応されています。	入居者の方が楽しく過ごして頂ける空間にしたいと話されています。更なるご活躍に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やアセスメントにより、本人の望む生活の把握に努めていますが、充分ではありません。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録等により把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	反映させる様に努力していますが、充分ではありません。	ケアマネージャーが週1回訪問。入居者との面談や職員への聞き取りから、プラン作成、モニタリングがなされています。プランが、意向や実情と違う時は、話し合いを行い、プラン見直しが行われています。	プラン立案とプラン実行の連動性について今後も考えていきたいと話されています。より良いシステムが出来るよう期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で共有出来る様に努力していますが、充分ではありません。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスとの連携を図る様に努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在の所、充分ではありません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携機関による往診や受診により、適切な医療が受けられる様にしています。	協力病院から2週間に1回の往診があります。体調不良等があれば、受診に行かれています。協力病院とは、24時間連絡体制があります。また、元々のかかりつけ医への受診も可能です。(基本的に家族の付き添いを依頼。状況によりホーム側の対応も可能。)	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違う事があれば職場内の看護師に相談し対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様より要望を聞き対応出来る様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	説明はしていますが、充分には行えていません。	開設して1年。終末期ケアの経験はありませんが、家族や本人の意向を聞き取り、日頃から、考えておられます。	ホームとしての方針を検討中。今後、家族や本人の意向に沿える様対応していきたいと話されていました。検討を重ね、実施できる様、期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	落ち着いて行動する様に促してはいますが、十分ではありません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火訓練や避難訓練を行い全職員に周知し対応出来る様にしていますが、充分ではありません。	年2回避難訓練を実施。内1回は消防署の立会いの下実施されています。消防署とは緊急連絡設備が設置されています。	地域住民との協力体制をどの様に築いていくか検討されていますが、具体的な話には進んでいません。万一の場合を想定し、住民との協力体制の整備に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気を付けていますが、充分ではありません。	個人個人の性格や行動を把握し、さりげない言葉かけを行っておられます。無理に引き止める事無く、行動を見守る姿勢が周知されています。	排泄や入浴など、肌が露わになる場面での配慮がまだまだ来ていないと感じておられますが、個々の尊重やプライバシーの配慮についての意識を高くもっておられます。引き続き、入居者の支援、配慮に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取りながら、思いや希望を聞き出す様にはしていますが、充分には行えていません。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	物理的、時間的な問題もあり充分ではありません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、散髪に来てもらっています。衣服も出来るだけ選んでもらう様にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けやテーブルを拭いてもらう等出来る事はしてもらっています。	職員と入居者が、食器の片付けなど、それぞれが出来る事を協力しながらされています。献立は入居者のリクエストを聞きながら、立てておられます。また、その日の希望により、献立を変更する事もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	努力していますが、充分ではありません。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に実施していますが、充分ではありません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状態により声かけや誘導を行い、出来るかきりトイレでの排泄を心掛けています。	日々の記録から排泄パターンを把握する様心掛けておられます。入居前に紙パンツを使用していた方が、布パンツになられた方もおられます。排泄の失敗もありますが、出来る限り布パンツで対応し、自立支援に向けた支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動等により予防するようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や本人の意思により入浴して頂いていますが、曜日や時間帯は決めています。	基本的に、週3回午後からの入浴となっています。毎日希望される方に対しては、職員の人員配置の都合上、要相談となっていますが出来る限りの配慮に努められています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを見ながら、居室で休んで頂いたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬表を閲覧出来る様に往診記録等も作成し理解に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	努力していますが、充分ではありません。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	努力していますが、充分ではありません。	日々の散歩や花の水やりなど、日常的に外出機会を設けておられます。また、町内の行事にも積極的に参加されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	努力していますが、充分ではありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画作成や季節感を出す工夫をしています。居心地のいい空間作りに努めています。	リビング、廊下は自然光が差し、自然な明るさがあります。また、テーブルの他、ソファや畳スペースもあり、好みのスペースで過ごす事が出来ています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	隣通しで会話したり、ソファでテレビを見ることが出来る様にしています。畳でくつろぐ事も出来る様に工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みのある物を家族様より持ってきて頂き本人が落ち着いて生活出来る様に取り組んでいます。	タンスや机など、使い慣れた物を持ち込まれています。また、カーテンの色調も入居者の方と家族が気に入った物をかける事が可能で、それぞれの個性や趣味に合わせた空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活出来る様に取り組んでいます。		